

# 天文班新聞

編集者  
天文班  
一学年

## 七夕の夜空に輝く「夏の大三角」

七月七日の七夕は、織姫と彦星が一年に一度だけ出会う日として知られている。実際に夜空で織姫星とされているのはこと座の一等星ベガ、彦星はわし座の一等星アルタイルである。さらに、はくちよう座の一等星デネブを加えた三つの星は「夏の大三角」と呼ばれ、古くから人々に親しまれている。

興味深いことに、この三つの星は同じ方向に見えているだけで、実際には地球からの距離が大きく異なる場所に存在している。ベガは地球から約25光年、アルタイルは約17光年と比較的近い恒星である。一方、デネブはこれらの星より100倍以上遠い、約2500光年も離れた場所に位置している。

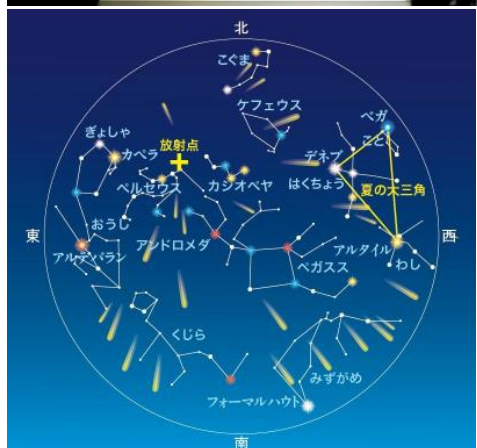
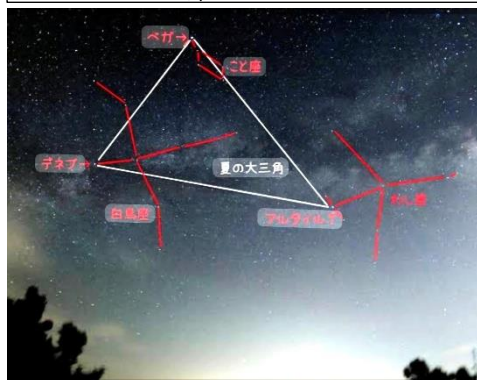
ではなぜ、デネブが夏の大三角を形作るほど明るく見えるのだろうか。それは、デネブが太陽の約6万倍以上という圧倒的なエネルギーで輝く「超巨星」だからである。超巨星とは太陽よりもはるかに質量が大きく、極めて明るく巨大な恒星のことである。

また、「光年」とは時間ではなく距離の単位であり、光が一年間に進む距離を表している。つまり、ベガの光は約25年前、デネブの光は約2600年前に放たれたものなのだ。私たちは夜空を見上げることで、遠く離れた宇宙だけでなく、過去の宇宙の姿も同時に見ているのである。

## 7月下旬からの流星群

7月下旬からは多くの流星群が見られるようになる。7月27日のみずがめ座 $\delta$ （デルタ）北流星群にはじまり、28日にはみずがめ座 $\delta$ 南流星群、30日にはやぎ座 $\alpha$ （アルファ）流星群がピークをむかえる。この3つの流星群はほとんど同じ時期に流れるため1時間でも20個ほど流れ星が見られるかもしれない。しかし7月31日に月は満月になり観測条件としては少し悪いので、もしみるのであるのなら月が視界に入らないようにしてみると良い。

また8月13日前後には三大流星群であるペルセウス座流星群が条件もいい日に見られるので、午後9時以降に空を見てみるのも良いと思う。



引用元：日本気象協会 [https://tenki.jp/suppl/m\\_nakamura/2019/06/08/29146.html](https://tenki.jp/suppl/m_nakamura/2019/06/08/29146.html)

薩摩川内市せんだい宇宙館 <https://sendaiuchukan.jp/event/plan/event2026/perseid2026.html>